



令和6年5月1日号
Sakata

市議会だより

第79号

3月定例会

人口減少問題に取り組むため「市民所得の向上」

「働きたいと考える全ての市民が働くことのできる環境の整備」

「豊かに安心して暮らせるまちに」

「市民の幸せ（ウェルビーイング）を実現する酒田市」を

重点化した令和6年度予算を可決

『萌ゆる里の春』高谷 勝巳氏 撮影



1月臨時会

令和6年1月16日
会議期間1日間

審議された議案等

●市長提出案件……………1件

令和5年度一般会計補正予算（第10号）を審議しました。

議案は、予算特別委員会の審査を経て本会議で採決が行われた結果、可決されました。

予算特別委員会

1月16日に議第1号令和5年度酒田市一般会計補正予算（第10号）を審査しました。

今回の補正は、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用する低所得者支援に係る経費の計上が主なものでした。

審査の結果、原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

3月定例会

令和6年2月21日～3月15日
会議期間24日間

審議された令和5年度議案等

●市長提出案件……………18件

令和5年度一般会計補正予算（第11号）をはじめ、右記議案等を審議しました。

議案は、各常任委員会、予算特別委員会の審査を経て本会議で採決が行われた結果、可決されました。

代表質疑

代表質疑とは……
会派・団体の代表が、市長提出の議案に関して、疑問を問い確かめるもの。

令和5年度市長提出議案に対する質疑では、2月21日に会派等の代表1人が行いました。
質疑と答弁の要旨は次のとおりです。

電気代、燃料費高騰に伴う国の支援は

共産党
市議団



斎藤周 議員



問 今回の補正要因のひとつに、燃料代や電気代の高騰による増額がいくつかある。燃料費では、市民会館管理事業、電気代では、美術館管理事業、土門拳記念館管理事業、体育施設管理事業などである。これは昨今の諸物価高騰のありを受けの措置であるようだが、そこで、それぞれの年間の影響はいくらか。

答 市長 本市が直接支出する燃料費および光熱水費を集計すると、一般会計では、令和5年度当初予算の段階で令和4年度比2.6%増の約8億5千万円を計上している。実際の影響額は、決算を待たないと確定しないが、令和4年度の決算額約7億4千万と令和5年度予算現計を単純に比較すると、令和5年度で約1億円増加している。

問 燃料費および光熱水費高騰に対する国からの援助はないのか。当初予算の段階でかなり無理をして編成したということも聞いている。
答 市長 国からの支援は、普通交付税に包括算定経費として基準財政需要額に算入されている。包括算定経費は、地方財政対策上で前年度比3.5%増と示されており、本市の基準財政需要額としては約4千8百万円が算入されていることになる。

常任委員会

2月22日に各常任委員会を開催し、令和5年度関係議案10件を審査しました。

【総務】

議第8号酒田市基金条例の一部改正についてのほか、議第11号および議第12号の議案3件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

【民生】

議第9号酒田市介護保険介護給付費準備基金条例の一部改正についてのほか、議第13号の議案2件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

【建設経済】

議第10号酒田市長営土地改良事業分担金徴収条例の一部改正についてのほか、議第14号から議第17号までの議案5件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

予算特別委員会

2月22日に議第2号令和5年度酒田市一般会計補正予算（第11号）のほか、議第3号から議第7号までの議案6件を審査しました。

今回の補正は、歳入の増加や決算見込みなどにより生じた財源の基金への積み立て、ふるさと納税寄附金の増加見込みによる返礼品などの経費およびさかた応援基金積立金の増額、決算見込みによる事業費の調整が主なものでした。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

また、3月15日に追加提案された議第50号令和5年度酒田市一般会計補正予算（第12号）を審査しました。

今回の補正は、国の補正予算に係る交付金の交付決定により令和6年度予算に計上した事業を令和5年度に前倒して実施するためのものでした。

審査の結果、原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

審議された令和6年度議案等

- 市長提出案件……………36件
- 議員提出案件……………3件
- その他……………5件

令和6年度一般会計予算をはじめ、右記議案などを審議しました。

議案は、各常任委員会、予算特別委員会の審査を経て本会議で採決が行われた結果、可決、同意されました。

代表質疑

令和6年度市長提出議案に対する質疑では、2月29日に各党派等の代表6人が行いました。質疑と答弁の要旨は次ページのとおりです。

概要

代表質疑

委員会報告

審査結果一覧

議会活動日誌

一般質問

議会改革

共産党
市議員団いちほろ えいこ
市原 栄子 議員

子ども・子育て施策の強化は

問 国は、子ども・子育て政策の強化に係る地方財源の確保として、子ども・子育て加速化プランによる地方負担への財源確保と地方公共団体が単独でソフト、ハード事業ともに実施できるように、「子ども子育て支援事業」の経費を新たに計上している。本市の令和6年度での取り組み、また今後の取り組みにつながる事業として、どのように令和6年度予算に反映されているのか伺う。

答 市長 本市では、令和6年10月から実施される児童手当の支給対象年齢の拡大、所得制限撤廃、多子加算、児童扶養手当の所得制限緩和の準備を進めている。また出産子育て応援交付金が令和6年度以降も継続されることとなったほか、産後ケア事業の見直しを行い、負担軽減を図る。本市では、以前から大学などの受験費用の補助を行っているが、国で同様の制度が開始されたことに伴い、これに加えて新たに進学前の模擬試験費用の助成を行う。保育所の職員配置基準の改善などに対する国の加算では、各法人への情報周知に努めていく。また令和10年度まで活用できる子ども子育て支援事業債の活用も施設整備や環境改善のために検討していきたい。

志友会

たなかひろし
田中 廣 議員

新年度予算編成のポイントと今後の財政見通しは

問 令和6年度一般会計予算は、前年度当初より1.9%増の過去2番目の規模となっている。その理由と、ポイントを伺う。

答 市長 ふるさと納税寄附金歳入見込み額の増額に伴う返礼品費用、基金積立金の増額、人件費、物価高騰などの影響による委託料などの増加が原因と捉えている。令和6年度予算は、所信表明で挙げた4項目を重点化した予算を編成した。

問 令和6年度以降も財源不足を基金繰入金で補う予定となっており、予算構造上の課題と考えるが所見を伺う。

答 市長 公債費を縮減し、職員適正化方針と合わせて実行することで基金依存の改善を想定したが、人件費など増額分の財源確保には至らなかった。引き続き、公共施設の在り方や事業の見直しが必要になると考えている。

問 健全な財政運営や予算編成における基金運用の考え方を伺う。

答 市長 中期財政計画に基づき、市債の発行や基金の取り崩しを制限する場合もあり得るが、基金残高を増やすことが目的ではない。必要な事業は、基金を活用し実行していきたい。

令和会

いちむら こういち
市村 浩一 議員

酒田DMO(観光地域づくり法人)と観光行政の役割分担を

問 酒田DMOは、台湾からの教育旅行の誘致など徐々に存在感を増している。今までにない民間的発想の基に事業を行っている成果の表れと考える。欧米では、マーケティングやプロモーションはDMOに任せ、行政は政策と庁内調整、予算の確保、観光地の魅力づくりなど、観光行政とDMOの役割分担をはっきりさせている。今回の予算編成において、観光行政とDMOの役割分担がなされているのか伺う。

答 市長 酒田DMOは、観光コンテンツの企画開発、観光に関する情報発信や民間事業者と連携した事業によって、地域にも経済効果をもたらす役割を担っている。行政は、観光地などの整備のほか、関係団体と酒田の花火などの観光イベントを実施するとともに、酒田DMOと連携し観光の方向性を決めていく役割を担っている。また、酒田DMOが独自の事業計画に基づき一定の裁量で実施し、地域により多くの利益をもたらすことができるよう、令和6年度予算では負担金から補助金に変更した。これにより、事業を柔軟に遂行できるようになると考えている。

新政会



進藤 晃 議員
しんどう 晃



若者カフェミーティングにより若者が定着する仕組みづくりを

問 若者の意見を直接市長が聞く「若者カフェミーティング」は、多様なメンバーや組織、団体との対話により活動の輪を広げ、市政に対する参加意識を高め、若者が郷土愛や意欲を持って未来を切り開くことにつながることを期待する。具体的なテーマ、構成メンバー、方法を、目的を伺う。

答 市長 令和5年度は、本市で働く特定技能外国人の生活面の困りごと、障がい者施設利用者などから労働環境の在り方などの意見を伺った。今後も地域の伝統行事の担い手不足などの具体的テーマを検討し、当事者である若者のほか、本市の担当部課長も参加して庁内の連携も深めたい。また子どもたちの意見を聞く場としても活用していきたい。

問 シティプロモーションの視点を取り入れた広報広聴の改善に取り組むとしているが、人材を活用したシティプロモーションの目的と戦略を伺う。

答 市長 市民協働を推進するため、まちづくりを自分ごととする市民を増やすことを目標としたが、十分な効果が得られなかった。まずは市民の地域への誇りと愛着などを高めるプロモーションを中心に組みたい。

市政研究会



佐藤 弘 議員
さとう ひろし



市民の幸せ(ウェルビーイング)とはどのような姿か

問 矢口市長の令和6年度施政方針に、人口の減少下においても、市民の幸せ(ウェルビーイング)を実現する酒田市にすることある。矢口市長が考える市民の幸せ(ウェルビーイング)とはどのような姿なのか伺う。

答 市長 ウェルビーイングとは、身体的にも精神的にも社会的にも全てが満たされた状態にあることをいい、将来にわたる持続的な幸福を含む概念と言われている。日本では、国のデジタル田園都市国家構想や教育振興基本計画においてもウェルビーイングという言葉が使われており、大変よく使われる言葉になっている。幸せ(ハピネス)という言葉は、一時的な幸せの感情を表すが、ウェルビーイングの幸せは、一人ひとりが尊重され、自己実現し、満たされた状態が持続することを表している。私の考える市民の幸せ(ウェルビーイング)とは、市民一人ひとりが自身の望む選択をしながら人生を送ることができるということである。自身の望む選択をするためには、最低限の所得の保障、それから、それぞれの考え方や違いを尊重し合う地域社会の風土、この二つが必要だと考えている。

市民の会



後藤 泉 議員
ごとう ずみ



就任後初の予算編成で初の女性市長として重視した施策は

問 昨年の市長選挙後、矢口市政初の新年度予算編成であったが、市長査定全般を通して、特に矢口カラーとして重視した考えを示すことはできたのか伺う。

答 市長 人口減少が様々な地域課題の根底にあると位置付け、それを前提として予算編成を行った。本市では大型投資やハード事業面は大分進んでいると考えており、大きな投資案件はなかったことも特徴と考えている。

問 市長は所信表明の中で、地方やこの地域に根強く存在している「伝統的な性別役割分担意識」を無くし「日本一女性が働きやすいまち」が人口減少を抑制する唯一の道であると示している。それらを鑑み、女性市長誕生の期待に応える施策や今後の展開を伺う。

答 市長 「日本一女性が働きやすいまち」は、女性にこれ以上頑張ることを強いるものではなく、例えば家事分担を男性も共に担う風土を根付かせることなどを目指すものであり、家事省力化につながる取り組みの事業や酒田市はまなし学園の利用時間延長の条例提案などは、そのような施策だと考えている。

常任委員会

3月1日に各常任委員会を開催し、令和6年度関係議案21案件を審査しました。

【総務】

議第27号酒田市契約及び財産に関する条例の一部改正についてのほか、議第28号から議第32号までの議案6件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

【民生】

議第33号酒田市コミュニティセンター設置管理条例の一部改正についてのほか、議第34号から議第39号および議第44号の議案8件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

【建設経済】

議第40号酒田市企業立地促進条例の一部改正についてのほか、議第41号から議第43号および議第45号から議第47号までの議案7件を審査しました。

審査の結果、いずれも原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

予算特別委員会

3月4日から7日に議第18号令和6年度一般会計予算をはじめ、6特別会計予算、2事業会計予算の議案9件を審査しました。

審査の結果、議第21号令和6年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計予算には賛否両論があり、起立採決の結果、賛成多数で可決すべきもの、そのほかは原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

また、3月15日に追加提案された議題51号令和6年度一般会計補正予算（第1号）を審査しました。

今回の補正は、飛鳥光ケール復旧工事費の計上および国の補正予算に係る交付金の交付決定による令和5年度予算への前倒しに伴う減額が主なものでした。

審査の結果、原案を妥当と認め、全会一致で可決すべきものと決定しました。

委員会の概要

●常任委員会

総務、民生、建設経済の3常任委員会がある。各常任委員会で所管分野の案件を審査する。

●予算特別委員会

当初予算（3月定例議会）、補正予算（都度）を審査する。議長を除く全議員でその都度設置する。

議第21号

令和6年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計予算

反対討論

共産党市議団 市原栄子 議員

国は、物価高騰対策を行っているが、命に直結する健康保険料の引き上げを行い、矛盾している。国は公的資金を投入しても引き上げを回避する対策をとるべきであったと考える。後期高齢者医療制度の運営主体は、県広域連合であり、本市は、保険料徴収や各種届出の受付などの窓口業務を分担しているが、市民の暮らしがさらに厳しくなることは避けなければならないと考え反対する。

議第18号

令和6年度酒田市一般会計予算

賛成討論

新政会 佐藤伸二 議員

令和6年度は、前年対比1.9%増の562億5千万円の大型予算で、前年より10億円増であるが、税収の増加見込みが厳しい中、市長の思いと市民への公約を果たすため、しっかりと市民の生活を守ってほしいと考えている。まずは矢口市長第1回目の予算に期待し、各事務事業の目的が達成され、市民が幸福を感じられることを祈念し賛成する。

予算特別委員会における主な質疑

◎令和6年度一般会計予算

「総務部」防災対策強化事業

問 避難所用備蓄品として液体ミルクが新規に備蓄される。備蓄先は、市役所庁舎と酒田子育て支援センターのみか。

答 災害時の拠点となる市役所庁舎と福祉避難所の酒田子育て支援センターの2か所である。各避難所には粉ミルクが備蓄されており、液体ミルクが必要となる場合は、各避難所へ随時運搬する。

他の項目／シテイプロモーション推進事業、選挙啓発事業、酒田移住交流推進事業、徴収事業、消防団運営事業、基本研修事業

「企画部」山居倉庫整備事業（新規）

問 新規事業として山居倉庫整備事業が始まる。具体的な施策は。

答 耐震診断などを行いながら、整備基本計画を作成する。山居倉庫は、観光施設としての認識が強いが、国の史跡として守るという方針に変わり、歴史にも関心を持っていただけるよう市民に情報発信を進めていきたい。

他の項目／デジタル変革事業、大学まちづくり推進事業、デマンドタクシー運行事業、東北公益文科大学生定住促進事業、文化資料館管理運営事業、駅周辺整備事業

「地域創生部」観光戦略推進事業

問 酒田DMOは、観光の企画事業化でどのように携わっているのか。

答 台湾でのプロモーション活動による酒田市への台湾旅行客の増加、台湾の中学・高校生が教育旅行で訪問するなどの実績がある。また経済交流として、現地で酒田産品展示即売会を開催している。今後、さらに市内観光関連業者と連携を図りたい。

他の項目／重要港湾酒田港活性化推進事業、女性活躍推進事業、人材活躍推進事業、交流観光推進事業、みなとオアシス活性化促進施設管理運営事業、企業立地促進事業、鳥海山・飛鳥ジオパーク推進事業、客船受入事業、市内都市交流事業、酒田市東京拠点運営事業、観光まちづくりアドバイザー事業、北前船日本遺産推進事業

「市民部」空き家等総合対策事業

問 相続財産管理人選任申立は、本市が利害関係者になり、未相続物件を積極的に処理するという認識でよいか。

答 対応できるよう予算を計上している。

他の項目／空き家等総合対策事業、地域猫活動支援事業（新規）、各総合支所地域振興事業、市民交流推進事業、マイナンバーカード交付事務事業、男女共同参画推進事業、環境対策事業、霊園管理運営事業、結婚推進支援事業、国際交流推進事業

「健康福祉部」地域福祉推進事業

問 ひきこもり支援在宅団体運営費補助が拡充されているが、具体的な支援内容を伺う。

答 民間事業者、自立支援センターと本市でひきこもり支援プラットフォームを立ち上げており、各民間事業者でも様々な活動をしている。相談支援、居場所づくり支援、当事者会、家族会などの活動をさらに活発にしていきたいよう事業実施に対して支援する。

他の項目／民生委員・児童委員活動事業、こころの健康づくり推進事業、発達支援事業、法人立保育所等補助事業、こども家庭センター運営事業、ほっとふくし券事業、各種予防接種事業、医療・介護DX連携推進事業運営事業（新規）

「建設部」住宅総合支援事業

問 空き家解体補助金の上限が中心市街地（防火・準防火地域）だけ増額となるのは不公平感があるのではないか。

答 中心市街地は、住宅密集地であり、能登半島地震のように延焼の恐れがあるという危機感がある。今回は、空き家対策の中で住宅密集地の増額を重点的に制度化した。

他の項目／美化サポーター活動支援事業、公園施設再整備事業

「農林水産部」 スマートオーガニック推進事業（新規）

問 推進には、スマートオーガニックシティ宣言が要件となるが、成果指標、目標ノルマはあるか。

答 スマートオーガニック検討会では、有機米の栽培面積の拡大、有機農業に取り組む農業者数の増加を目標にしている。

他の項目／耕畜連携推進事業、酒田地区農産物輸出推進協議会負担事業、異常気象対応営農支援事業（新規）、森林病虫害等対策事業、いかのまち酒田推進事業、農業用ため池防災対策事業

「教育委員会」教育相談事業

問 ふれあい教室（不登校児童生徒の相談学びの場を提供する教室）の大切さが増すますクローズアップされてきた。担当者を増やす可能性はあるか。

答 ふれあい教室に通級している児童生徒数は、令和5年度は22名となっている。現時点では、これまでの動きを見て運営方針を考えている。

他の項目／体育施設整備事業、教育DX推進事業、子どものスポーツチャレンジ支援事業、スポーツによる地域のコミュニティ活性化事業、通学・校外学習等支援対策支援事業、学校空調設備事業（小学校）・（中学校）、ミライ二管理運営事業、中学校給食事業、スポー

ツ・文化活動支援事業、数理教育推進事業、日本語指導講師等派遣事業、教育相談事業、小中一貫教育推進事業、生涯スポーツ推進事業

◎総括的質疑

問 各総合支所地域振興事業予算が拡充となるが、地域住民の声は反映されているか。

答 地域・関係団体とは、継続可能性、協体制、負担の議論を行った。広く聞いた意見も踏まえ、予算化している。

問 形骸化された予算編成も見受けられる。バランスも大事であるが、スクラップアンドビルドは進んでいるのか。

答 不要となったものや価値を見出しにくいものは削減していくことが基本となるが、完全に事業をなくせたといいところまで至っていない。基本的な考え方をもってしっかり対応していきたい。

問 予備費を使うときのルールを伺う。

答 予算は、原則補正予算を組み執行するが、いとまがない、財源がない場合のみ予備費を活用する。令和6年度からは、通年議会に移行し、常に会期中となるため、基本的には、補正予算で対応することになると考えている。

問 予算資料作成の基準を伺う。

答 酒田市総合計画にある施策を実現していく中で、予算、決算、評価が一体となったものを作成した。総合計画に関わる事業は、これまで載せていなかったものも掲載している。

◎令和6年度特別会計予算等

「国民健康保険特別会計」

問 マイナンバー保険証、オンライン資格証明の導入により短期保険証の発行が廃止となる。納税啓発への影響は。

答 国に対し、代替の制度を求める意見が出されており、国の動向をみながら、従来の徴収活動を進めていく。

「後期高齢者医療事業特別会計」

問 予算額が引き上げられているが、保険料が引き上げられるということか。

答 保険料を引き上げた枠組みで予算編成している。

人事案件に同意

3月1日に提案された酒田市教育委員会教育長の任命について、議会は全会一致で同意しました。

任期は令和6年4月1日から令和9年3月31日までです。



【教育委員会教育長】
あかさか よしのり
赤坂 宜紀 氏

令和6年第1回1月臨時会 議決結果一覧表

議案番号	件名	議決結果
議第1号	令和5年度酒田市一般会計補正予算(第10号)	可決

令和6年第2回3月定例会 議決結果一覧表

議案番号	件名	議決結果
報第1号	専決事項の報告について(損害賠償の額の決定)	報告
議第2号	令和5年度酒田市一般会計補正予算(第11号)	可決
議第3号	令和5年度酒田市定期航路事業特別会計補正予算(第2号)	可決
議第4号	令和5年度酒田市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可決
議第5号	令和5年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)	可決
議第6号	令和5年度酒田市介護保険特別会計補正予算(第5号)	可決
議第7号	令和5年度酒田市駐車場事業特別会計補正予算(第2号)	可決
議第8号	酒田市基金条例の一部改正について	可決
議第9号	酒田市介護保険介護給付費準備基金条例の一部改正について	可決
議第10号	酒田市県営土地改良事業分担金徴収条例の一部改正について	可決
議第11号	酒田市総合計画後期計画の変更について	可決
議第12号	物品の取得について(教師用指導書(小学校及び中学校))	可決
議第13号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	可決
議第14号	あらたに生じた土地の確認について(酒田港外港地区)	可決
議第15号	字の区域の変更について(酒田港外港地区)	可決
議第16号	公有水面埋立ての免許に係る意見について(酒田港外港地区)	可決
議第17号	損害賠償の額の決定について	可決
議第18号	令和6年度酒田市一般会計予算	可決
議第19号	令和6年度酒田市定期航路事業特別会計予算	可決
議第20号	令和6年度酒田市国民健康保険特別会計予算	可決
議第21号	令和6年度酒田市後期高齢者医療事業特別会計予算	可決
議第22号	令和6年度酒田市介護保険特別会計予算	可決
議第23号	令和6年度酒田市風力発電事業特別会計予算	可決
議第24号	令和6年度酒田市駐車場事業特別会計予算	可決
議第25号	令和6年度酒田市水道事業会計予算	可決
議第26号	令和6年度酒田市下水道事業会計予算	可決
議第27号	酒田市契約及び財産に関する条例の一部改正について	可決
議第28号	地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	可決
議第29号	酒田市特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正について	可決
議第30号	酒田市消防団に関する条例の一部改正について	可決
議第31号	酒田市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について	可決
議第32号	酒田市文化資料館光丘文庫設置管理条例の制定について	可決

議案番号	件名	議決結果
議第33号	酒田市コミュニティセンター設置管理条例の一部改正について	可決
議第34号	酒田市犯罪被害者等支援条例の制定について	可決
議第35号	酒田市手数料条例の一部改正について	可決
議第36号	酒田市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例の一部改正について	可決
議第37号	酒田市福祉型児童発達支援センター設置管理条例の一部改正について	可決
議第38号	酒田市介護保険条例の一部改正について	可決
議第39号	酒田市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例の一部改正について	可決
議第40号	酒田市企業立地促進条例の一部改正について	可決
議第41号	酒田市道路占用料徴収条例の一部改正について	可決
議第42号	酒田市都市公園条例及び酒田市公園条例の一部改正について	可決
議第43号	生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	可決
議第44号	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構中期計画の認可について	可決
議第45号	重要な公の施設の長期かつ独占的な利用について（さかた海鮮市場）	可決
議第46号	重要な公の施設の長期かつ独占的な利用について（産直たわわ）	可決
議第47号	重要な公の施設の長期かつ独占的な利用について（めんたま畑）	可決
議第48号	酒田市教育委員会教育長の任命について	同意
議第49号	酒田市監査委員の選任について	同意
議第50号	令和5年度酒田市一般会計補正予算（第12号）	可決
議第51号	令和6年度酒田市一般会計補正予算（第1号）	可決
諮第1号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同意
諮第2号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同意
諮第3号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同意
議会第1号	酒田市議会定例会の回数に関する条例の一部改正について	可決
議会第2号	酒田市議会議員の議員報酬等に関する条例の一部改正について	可決
議会第3号	酒田市議会会議規則の一部改正について	可決

議会活動日誌 *Diary*

1月

11日	全議員勉強会 総務・民生常任委員協議会
12日	議会運営委員会 議会報編集委員会
16日	1月臨時会 本会議 予算特別委員会 議会運営委員会 総務常任委員会 総務常任委員協議会 総務常任委員勉強会
19日	議会報編集委員会
25日	民生常任委員勉強会

2月

6日	議会改革推進特別委員会
9日	全議員勉強会 議会報編集委員会
13日	各常任委員協議会 各常任委員勉強会
15日	議会運営委員会
21日	3月定例会（～3/15） 議会運営委員会 本会議 総務常任委員協議会 建設経済常任委員勉強会
22日	各常任委員会 予算特別委員会 議会運営委員会 委員長会議
27日	本会議
29日	本会議

3月

1日	各常任委員会 建設経済常任委員勉強会 議会報編集委員会
4日	予算特別委員会（～3/7）
6日	議会改革推進特別委員会
7日	議会運営委員会
11日	本会議 各常任委員協議会
12日	本会議 議会運営委員会
13日	本会議
15日	本会議 予算特別委員会 議会運営委員会

一般質問

一般質問とは…
市政全般に関する状況や方針を質問し、報告や説明を求めたり、疑問を明らかにするもの。

3月12日から15日に
計17人が質問を行ないました。
質問と答弁の要旨は次のとおりです。



子どもを産み育てやすい
環境整備を

大壁洋平 議員

問 「子どもを授かりたいが、将来に不安がある」または「二人目以降、子どもが欲しいが経済的不安が…」という人達に暖かく手を差し延べ、社会、地域全体で取り組む必要があると考える。本市の産前産後の支援を伺う。

答 **地域医療調整監** こども家庭センターぎゅっとでは、産前産後サポートとして自宅訪問や交流サロンなどを開催している。また産後の援助が受けられない母子を支援する産後ケア事業などを実施している。

問 全国的に無痛分娩の割合が年々増加傾向にある。無痛分娩のメリット・デメリットは承知しているが、分娩後の回復が早い傾向があり、本市でも選択肢のひとつとして環境を整える必要があると考えるが、無痛分娩の本市での現状と考えを伺う。

答 **地域医療調整監** 本市には、母子の安全面から産科医師の判断で無痛分娩を実施する産科医療機関が1か所あるが、希望による無痛分娩は実施していない。分娩方法を選択できる環境は理想的だが、妊婦が安心安全に出産できることを優先すべきと考えている。

一般質問

みちのくウエストライン整備
早期実現のための運動を



本市観光ガイドの存在と
位置付けは

市村浩一 議員

問 近年、旅行のスタイルも団体から個人へとマーケットが変化する中で、改めて「観光ガイド」の存在が大切になってくると考える。安全安心を担保しながら個人旅行者のニーズに対応し、旅行者に地域の魅力や地域の人々を結びつけてくれる観光ガイドは、地域の観光にとって必要不可欠な存在である。創立40周年を迎える酒田市観光ガイド協会の存在をどのように捉えているのか伺う。

答 **地域創生部長** 本市の歴史と魅力を伝えることができる観光ガイドは、観光客に、より深い体験と感動を与えることができる人材として、本市の観光にとって非常に重要な役割を担っていると考えている。

問 今後、観光ガイド協会を本市の観光にどのように位置づけていくのか伺う。

答 **地域創生部長** 令和6年度は、クルーズ船の酒田港寄港が年間8回予定されるなどインバウンドの個人旅行者が増えているほか、令和7年3月のいろは蔵パークのオープン、令和8年4月の旧鑑谷の再開など新たな動きが控えており、観光ガイドへの期待がますます高まってくると考えている。

一般質問

安心安全に登れる鳥海山、
スポーツ施設の指定管理者
制度の在り方





災害時の情報提供の 在り方は

いちほら えいこ
市原 栄子 議員

問 令和6年1月1日の能登半島地震では、本市に津波警報が出され、多くの市民が避難したが、本市からの情報発信が少なく自分は大丈夫と帰宅する市民が多くいた。防災ラジオなどからは、十分な情報がない状況であったが、冷静な行動には正しい情報が不可欠である。本市では情報提供をどのように考えているのか伺う。

答 危機管理監 今後の情報発信の在り方を検討し、充実させなければならぬと考えている。特に、異常がないといった事実を積極的に発信して、市民に安心してもらうことも必要と考えている。

問 ある自治会からは、災害時の情報提供にグループLINEを活用し双方向での連絡に大変役に立ったと聞いている。双方向での情報伝達をどう工夫して行うのか所見を伺う。

答 危機管理監 構想だが、本市在住の防災士による防災士会をつくり、防災士を各避難所連絡員の補佐として配置する。防災士会会長は本市災害対策本部から各避難所の防災士に指示を出してもらい、避難住民への情報提供などを行っていきたくと考えている。

一般質問

本市のこれからの
防災体制は、市民の意見を
聞き活かす酒田市へ



津波避難情報の伝達手段と 質の向上を

たなか ひろし
田中 斉 議員

問 各種媒体での同時多発発信はなぜうまくいかなかったのか伺う。

答 危機管理監 これまで手動で行っていたため、タイムラグがあった。

問 避難場所や避難ビルとの情報共有もうまくいかなかったと考えるが、改善策を伺う。

答 危機管理監 津波警報発令中は避難所などにとどまるよう説明会などを行っているが、未参加の市民への周知も必要と考える。

問 気象庁などからの災害情報の伝達経路と発信方法を伺う。

答 危機管理監 プッシュ型の緊急速報メール配信のほか、県地方気象台とのホットラインがあり、各担当が配信するように努める。

問 潮位計を増設すれば、津波の観測情報が迅速化すると考えるが所見を伺う。

答 危機管理監 国が設置しているが、高精度であり新設は考えていないと聞いている。

問 ハザードマップは、難解で文字量が多過ぎる。また標高の表示が必要ではないか。

答 危機管理監 記載情報の多寡には様々な意見がある。最終的には、一人ひとりの防災行動計画を確認していただきたい。

一般質問

高齢者のための段ボール
ベッドなどの組立訓練、
防災資機材の見直しと強化



内水氾濫への 取り組みは

ごとう ひろし
後藤 仁 議員

問 令和5年は、本市での豪雨が少なかったため、大きな被害はなかったが、近年、短時間での集中豪雨が頻発し、被災も多くなっている。内水氾濫対策の進捗状況と効果はどのようになっているのか伺う。

答 建設部長 現在、計画時間雨量50・4ミリまでの降雨に対応する雨水幹線であるポンプ施設、側溝などの整備を進めている。また、ソフト対策としては、令和4年度から水位監視システムを導入し、大雨の際に冠水頻度の高い地域へ浸水センサー13か所と危機管理型水位計6か所を設置し、情報把握能力の向上を図っている。

問 特に、富士見町は被害が甚大で、札谷地排水路の更なる整備が必要と考えるが所見を伺う。

答 建設部長 今後の対策は、経年劣化などにより修繕が必要と判断された富士見町一丁目ポンプの更新工事を予定している。ポンプ稼働状況などから得られるデータの取得と分析に努め、今後も優先順位を見極めながら、可能なところから対策を講じていきたいと考えている。

一般質問

旧田沢小学校のコミュニティ
センター化、暖冬による
除雪事業者への影響





環鳥海山エリアの 観光振興の現状と展望

安藤 浩夫 議員
あんどう ひろお

問 日東道の秋田県との延伸、遊佐町の新しい道の駅建設、奥山林道の復旧工事、百宅地区の鳥海ダム建設、にかほ市、由利本荘市の大手アウトドアメーカーとの業務連携など環鳥海山周辺を取り巻く環境が大きく変わってきている。鳥海山・飛鳥ジオパークに象徴される豊かな自然とアウトドアエリアとして交流人口の拡大、観光の振興に大いに期待できる。秋田県域と情報の共有、組織強化、イベントの広域化などにより周遊型の長期滞在できる観光地域を目指すべきではないか伺う。

答 **地域創生部長** 環鳥海山エリアの観光振興には、秋田県との連携強化、緊密な情報共有、官民連携、商工会議所や企業などの民間同士での経済連携など、広域的な動きが必要であると認識している。また、様々な団体と連携を取りながら、自然の素材やアクティビティを提供して、くつろいでいただくことによって宿泊客を増やし、滞在期間を長くし、消費を増やしていくことが大事であると考えている。仮に鳥海山を核にして広域のDMOができれば、経済的な波及効果は非常に高いものになると考えられる。



酒田市空き家等情報サイトを 充実するには

後藤 泉 議員
ごとう いずみ

問 酒田市空き家等ネットワーク協議会が運営している「酒田市空き家等情報サイト」へ市のホームページから入って見ても、ほとんどが土地だけだったり、建物に関しても本市へ移住しようとして探している方々のニーズに合った魅力的な物件がほとんど掲載されていない。以前も質問したが、一向に改善しないのはなぜなのか。

答 **副市長** 相談を受けた物件の中には、立地が悪いものや相続など権利関係が整理されていないケースも多く、新規掲載の増加に結びつかないことが要因の一つであると認識している。

問 ネットワーク協議会には宅建業、不動産業の方々も入って運営していることから、情報共有に勤め「空き家バンク」施策の充実を図るべきと考えるが所見を伺う。

答 **副市長** 今後も空き家等情報サイトの掲載件数を増やしていけるよう、引き続き協議会の構成団体に働きかけ、加えて、空き家の相談者の皆さまに対してもサイトへの掲載について積極的に働きかけていきたい。



能登半島地震での 対応と課題は

齋藤 直 議員
さいとう なおし

問 1月に発生した能登半島地震において、津波警報が発令され多くの市民が沿岸部から遠く高い所へ避難した状況であった。避難所開設等対応は図っていたが、出羽遊心館や公益ホールは開設されておらず多くの市民が中に入ることができない状況であった。本市で管理している避難所等の鍵の管理はどのようになっているのか。

答 **危機管理監** 市内の小中学校及びコミュニケーションセンターなどの連絡員が合鍵を所持し、災害時など必要がある場合には開錠できる体制を取っている。

問 また今後の対策を伺う。

答 **危機管理監** 将来的には防災アドバイザーや防災士から避難所連絡員を補佐してもらい迅速に避難所を開設するなど運営方法を検討していきたい。



地震の際に出動した
消防ポンプ車

鍵を所有していない民間施設では、夜間などは開錠していないことを住民に周知していきたい。

一般 質問

個人版・企業版ふるさと納税
の現状と今後の方向性



一般 質問

住みたい田舎ランキング、
住宅セーフティネット制度、
災害に遭いにくい地域



一般 質問

被災者の支援状況、
マンホールトイレの
整備の考え



概要

代表質疑

委員会報告

審査結果一覧

議会活動日記

一般質問

議会改革



3年後の酒田市介護保険事業
計画に向けての課題は何か

齋藤 周 議員

問 本市の保険料区分は、これまで10段階までとされていたが、第9期計画からは国の改正に合わせて11段階以降を新設する。これだと保険料はかなりの引き上げとなり、介護保険制度の「国民共同連帯の理念に基づく制度」に反するが所見を伺う。

答 健康福祉部長 見直しの内容としては、今後の介護給付費の増加を見据え、65歳以上の第1号被保険者間での所得再配分機能を強化するため、標準段階の13段階への多段階化高所得者の標準乗率の引き上げ、低所得者の標準乗率の引き下げを図るものである。

問 保険料についても、制度が始まった時と比べて約2・6倍となっている。本市は第9期については保険料を引き下げたが、3年後の計画に向けて介護給付準備基金を活用してさらに引き下げるよう検討すべきだが所見を伺う。

答 健康福祉部長 第10期の介護保険料については現段階で一定程度増額すると推計しているが、計画策定の中で適正な保険料の在り方について検討していきたい。



住宅耐震普及率向上への
施策は

後藤 啓 議員

「いつという時、命を守る」

問 令和6年1月1日の能登半島地震では、住宅の倒壊で多くの方々が被災した。庄内地方にも津波警報が出され、本市沿岸部から高台に避難した方々も見られた。住宅の耐震に関して不安を覚えた市民も多かったと思われる。本市の住宅は木造、瓦屋根造りが多く地震の影響が大きいと思われる。本市の住宅耐震普及率、能登半島地震後の耐震対策、地盤隆起・液状化対策を伺う。

答 建設部長 本市内の住宅の耐震化率は、総務省で行っている平成30年度住宅・土地統計調査によると80・6%となっている。また、能登半島地震後の耐震対策としては、能登半島地震を受けて、令和6年度は防災ベッドと耐震シェルターの購入に対する補助金の増額を行う。設置費の5割、上限10万円だったものを、今回、山形県との協調補助によって設置費の8割、上限30万円に増額するもの。市内の住宅地における地盤の隆起対策や液状化対策の実施状況は、残念ながら把握していない。



防災井戸の取り組みは

富樫 寛 議員

問 平成7年の阪神・淡路大震災では、長期間にわたり飲料水や生活用水が確保できなかったことから、近年、断水時に住宅や工場、商業施設の井戸を近隣住民に開放する仕組みを導入する自治体が増えている。災害対応井戸や防災井戸と名称は異なるが、災害用井戸を事前登録する制度が導入されている。災害用井戸の活用制度は全国418市町村区で導入されているが、本市では防災用井戸の取り組みについてどのような課題があるのか伺う。

答 上下水道部長 防災井戸について本市で整備した事例はない。防災井戸を設置する場合、1か所当たり数十万円から数百万円程度の工事が生じることや、飲料水として利用するための指定基準や水質検査の実施などの維持管理が生じるため、現時点において、市で飲料水の防災井戸を整備する計画はない。

問 今後の取り組みについて伺う。

答 危機管理監 既存の井戸を防災井戸として活用して生活用水を確保することについては大きな課題はない。非常に有効であると考えられるため、今後、積極的に進めていきたいと考えている。

一般質問

ほかの質問はありません



一般質問

地域おこし協力隊・
集落支援員の定住向上、
地元定着に向けた業務の検討



一般質問

酒田産米(はえぬき)米粉の
生産拡大





第9期酒田市高齢者保健福祉計画・
介護保険事業計画の考え方は

佐藤 喜紀 議員
さとう よしのり

問 第9期酒田市高齢者保健福祉計画は、高齢者の健康や福祉の増進を図るために、高齢者のニーズや課題に対応する具体的な施策や方針をまとめたものである。高齢者が住み慣れた地域で生活を送るために、医療、介護、介護予防、住まいおよび生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築は重要と考える。計画では、日常生活圏域を10圏域から現在の中学校区を基本とした7圏域に見直すとしているが、課題解決と地域包括支援センターの機能強化をどのように行う考えなのか伺う。

答 健康福祉部長 地域包括支援センターの再編により、各圏域の高齢者人口が3千人以上となる。介護保険法に定める保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員の3職種の専門職を配置して、3職種によるチームアプローチが行えるよう人員体制を整え、機能強化を図っていききたいと考えている。また、高齢者の生活支援や社会参加に関する整備を行うために、生活支援コーディネーターを引き続き配置して、地域づくりを強化していききたい。



女性の健康課題に対する認識と
環境改善に向けた取り組みを

遠田 敏子 議員
えんた としこ

問 女性は、ライフステージごとにホルモンバランスの変化により健康課題を抱えながら就労している。環境の整備は重要であり、女性特有の健康課題の認識を伺う。

答 市長 女性が性差に基づく男性とは異なる健康課題があることと、その具体的な中身に對する社会の理解はまだまだ十分ではないと考えているため、今後とも、性差に基づく女性の健康課題に多くの市民の理解が進むように、引き続き周知の方法を工夫していききたいと考えている。

問 更年期に生じる体調不良を原因に離職することなく雇用を守るためにも「日本一女性が働きやすいまち」を掲げる本市だからこそ施策が必要と考えるが所見を伺う。

答 総務部長 市の制度としては、現在特別な施策は設けていないが、今後、国家公務員の制度に準拠しながら制度化を考えていききたいと考えている。市が先導し、女性労働者が安心して働けるような体制をしっかりと築いていくことは、全市的にも大切なことであると認識している。



熱波と生産調整の影響で
売る米が足りない

松本 国博 議員
まつもと くにひろ

問 本市においても全国的にも、米の生産調整により、水田面積の約半分でしか主食用米を生産していないが、酒田産米を欲しがる業者は多い。ふるさと納税返礼品としても東京ドーム76個分の面積の米が必要にも関わらず、米不足が生じており販売機会の損失を感じる。県の米生産調整の目安を最大限に活用し、米生産の数値を下げない努力を行うべきと考えるが所見を伺う。

答 農林水産部長 今後、需要を満たしていくためには戦略も求められてくるため、両農業協同組合なども相談しながら目指すべき方向性を考えていききたい。

問 5年水張りルールという5年間水田として使っていない地目には、転作交付金を支払わない国の施策に現場の意見は届いているのか。

答 農林水産部長 中山間地域などの条件不利地の窮状を訴えていくとともに、条件不利地においても、農地を守り、営農が継続できるように、交付金の見直しのみならず、交付金に代わる新たな支援といった観点でも必要な対策を求めていきたい。

一般質問

ほかの質問はありません



一般質問

学校教育現場における
薬物(市販薬)過剰摂取、
市道の日常的管理状況



一般質問

ほかの質問はありません





国際女性デーの 取り組みの継続を

たけだ けいこ
武田恵子 議員

問 3月8日は国際女性デーである。昨年は、本市の広報にもきちんと掲載され、庁舎の入り口にミモザの花を飾り、川柳を紹介するという取り組みがなされた。今年は同様の取り組みが庁舎以外にも増やされている。市ホームページには、副市長の「国際女性デーに寄せて」というメッセージが掲載されている。「本市は、女性が働きやすいまちを目指していますよ」というメッセージの発信である。今後、国際女性デーの取り組みをどのように進めていくのか所見を伺う。

答 市長 国際女性デーは、海外では女性の感謝をあらわす日として認識されており、男性が女性に花束をプレゼントすることで、日頃の感謝の気持ちを伝えることが習慣となっている。国際女性デーに合わせて、今後本市では行政として様々な取り組みを行っていくが、いつの日か、本市でも酒田産の花で彩られた花束を身近な人に贈り、感謝の気持ちを示す習慣が広がっていくことを期待している。



断水被害の長期化を 避けるための対策の充実を

いとう けんや
伊藤欣哉 議員

問 能登半島地震では社会インフラに大きな被害が発生した。特に断水の長期化は被害復旧の大きな足かせとなっている。耐震化を進めるべきと考えるが所見を伺う。

答 副市長 水道管路の耐震化を順次図りながら、水道施設地震等災害対策マニュアルに基づき速やかに復旧できるような体制を整えている。

問 旧市の配水池の耐震性についてどう考えているか伺う。

答 上下水道部長 酒田市水道施設耐震化計画に基づきながら、耐震化に向けた施工方法の検討を行っているところである。

問 水道事業は、今後広域水道企業団へ移行することになっているが、各市町の耐震化の状況によって計画の見直しが図られ、本市が不利益を被ることはないか伺う。

答 副市長 各構成自治体の既存の耐震化計画に基づいて進めることを想定しており、構成自治体全体で耐震化の進捗を押し上げていくことが重要であるため、統合によって本市が不利益を被ることは生じないと考えている。



10年先を見据えた 大胆な学区改編を

さいとう ひろし
佐藤弘 議員

―本市学区改編の考え―

問 少子化のスピードが止まらない。令和5年の国の出生数の速報値は、想定より12年も早いとのこと。本市も同様の傾向と考えられる。このまま少子化が進めば、学校統廃合につながる学区改編をせざるをえない状況であり、10年先を見据えた大胆な学区改編が必要と考える。第四中学校区に開設が予定されている義務教育学校をきっかけに、本市全体の学区改編に着手する時が来たと考ええる。子どもたちをより良い教育環境で学ばせたいのは、保護者の願いであり地域住民の願いでもある。少子化が想定以上に加速する中、本市の学区改編の考え方を伺う。

答 教育長 今後、小中一貫教育の充実や安全な教育施設の確保、スクール・コミュニティの観点なども検討し、総合的に取り組む必要があると考えている。小中一貫教育をベースとした中学校区全体の課題として総合的に検討、判断されるよう地域、保護者と十分に対話を行い、理解と合意の下に進めていくことが最も大切だと考えている。

一般質問

酒田看護専門学校の支援と
就業、子どもの遊び場、
男女共同参画社会づくり



一般質問

コロナ禍後の景気回復状況、
タクシーの状況、
2024年問題



一般質問

教材費等の無償化
(保護者負担軽減)の考え、
本市主催の平和事業



議会改革

令和6年4月から山形県で初めて
通年議会を導入しました

酒田市議会では、議会改革推進特別委員会で検討を重ね、通年議会を導入することとし、令和6年3月定例会において関連条例を改正し、山形県内で初めて通年議会を導入しました。

通年議会とは

これまで年4回の定例会を開き、議会が開いていない期間を閉会中としていました。

今後は、定例会の回数を年1回、会期を約1年として、常に議会が開会中の状態となります。なお、会議を行っていない日は、休日となります。

1月に市長が議会を招集し、定例会の会期を1年間と決めることで、その期間は議長の判断でいつでも会議を開くことができるようになります。

集中的に審議を行う期間（定例議会6月、9月、12月、3月）や迅速な対応を行うための審議（臨時議会）を開催していきます。

※令和6年の会期は、4月から12月になります。

酒田市議会 通年議会のイメージ



- ・招集議会…市長の招集により定例会を開催するために開く会議（会期の決定を行う）
- ・定例議会…定期的に開く会議をいい、3月、6月、9月及び12月に開く
- ・臨時議会…臨時に開く会議（必要に応じて開催）

各常任委員会の活動テーマ

- 総務** 公共施設等の適正化の推進
- 民生** 少子化の中での
 幼児教育・保育の在り方
- 建設経済** 酒田市の観光戦略

また、令和5年に実施した各常任委員会の政策提言についても、検証を行い、調査報告を行う予定です。

本市議会では、3つの常任委員会が所管する事項について活動テーマを打ち出し、市民や関係団体から意見を聞き、議員同士の「対話」を行い、政策提言を実施していきます。

各常任委員会の新しい
活動テーマが決定しました

3月1日に行われた各常任委員会では、令和7年の政策提言に向けた活動テーマを決定しました。活動期間は令和6年から7年を予定しています。

SPOT

スポットでは、
酒田市議会からのお知らせを
掲載しています。

皆さんの傍聴をお待ちしています。

受付 方法

●本会議、予算・決算特別委員会

市役所3階議場の傍聴席入口前にある受付カードに住所・氏名を記入の上、受付箱に入れ、傍聴席に入場ください。

●各常任委員会

市役所3階議会事務局で開会予定時刻の30分前から受付を行います。各委員会の傍聴定員は5名です。定員を超えた場合は、抽選などにより傍聴者を決定します。

※団体で傍聴を希望する場合は、事前に議会事務局へ問い合わせてください。

※傍聴の際は、スマホなどの電源をお切りください。また議会、各委員会の許可なく写真撮影等や録音はできません。

3月定例会中の傍聴者数
個人5名、団体なし 計5名

山形交響楽団議場演奏会 (2月27日)

山形交響楽団から演奏会の申し出があったことから、議場演奏会を開催しました。



次回定例議会のお知らせ(予定)

- 会期日程…………… 6月4日～6月18日
- 代表質疑…………… 6月6日
- 常任委員会…………… 6月7日
- 予算特別委員会……………6月10日
- 一般質問…………… 6月14日、17日、18日

※詳しい日程は5月27日に開催予定の議会運営委員会で決まります。

6月定例議会 請願締切 5月24日(予定)

編集後記

議会報編集委員会
委員 遠田 敏子

新緑がまぶしい季節を迎えました。新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類へ移行され、個人の選択が尊重されるようになり、まもなく1年。外出の制限もなくなり、帰省されているご家族やご親戚の皆さまとの再会が叶い、楽しい連休をお過ごしのことと思います。また、この春スタートを切った新社会人の皆さまは、それぞれの職場で仕事への意欲を燃やしながらも、緊張の連続ではなかったでしょうか。英気を養い、選ばれた道をまい進していただきたいと思います。議会報編集委員一同は、市民の皆さまから手に取ってもらえる議会だよりをめざし懸命に取り組んで参ります。

表紙写真説明



「萌ゆる里の春」

撮影場所は、旧八幡町芹田です。4月、里の草木が一斉に芽吹く季節がやってきました。鳥海山の雪解け水が日向川をどどどと流れていきます。河川敷の畑をくわで耕していました。畑仕事も本格始動です。 高谷 勝巳氏 撮影

※市議会だよりに対するご意見・ご質問などがありましたら、お気軽にお寄せください。

文字はユニバーサルデザインの文字を使用しています。

発行/酒田市議会 議長/佐藤 猛 編集/議会報編集委員会 発行部数/42,000部
山形県酒田市本町二丁目2番45号 電話0234(26)5770 FAX0234(26)5790
E-mail: gkikai@city.sakata.lg.jp